

令和7年 栃木市長 新年の抱負 (要旨)

○地域経済の活性化と雇用の創出 【産業基盤整備課・市街地整備課】

- ・栃木インター産業団地は、内定企業と立地に向けた調整を進めており、今月中に正式発表する。
- ・平川地区の産業団地は、食料品系企業の誘致を推進するとともに、早期の分譲に向けて、物件の移転や区画道路の整備を進めていく。

○都賀総合支所複合施設の開庁 【都賀地域づくり推進課】

- ・総合支所、公民館、図書館、避難所としての機能を有し、都賀地域の拠点となる新しい「都賀総合支所複合施設」は、2月に開庁する。

○子育て支援の充実 【こども家庭センター】

- ・こども家庭センターでは、全ての妊産婦、こども、子育て家庭を対象に、情報提供や相談支援を行っている。
- ・より支援を必要とする方に対して、ワンストップ相談体制と切れ目のない支援をすることにより、こどもまんなか社会の実現を目指す。

○治水対策 【道路河川整備課 治水対策室】

- ・県による永野川の大規模改修や巴波川の地下捷水路整備など、抜本的な河川改修は着々と進んでいる。
- ・市では、内水対策として、今年度中に、地下貯留施設等、3カ所の工事完了を予定。引き続き、調節池の整備や中小河川の改修、田んぼダムの整備等、流域治水に取り組んでいく。

○旧栃木警察署跡地の活用 【市街地整備課】

- ・土地利用方針に基づき、誰もが利用しやすい観光の起点となる、交流や出会いの場として「観光・交流拠点」の整備に取り組んでいく。
- ・まず、早期に整備する施設とした多目的広場、駐車場等の整備を進める。

○歌麿を活用した市の魅力発信 【蔵の街課】

- ・市ゆかりの浮世絵師、喜多川歌麿も物語に登場予定となっているNHK大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」が放送開始となった。
- ・栃木市を全国の皆様に知っていただく絶好の機会として捉え、とちぎ歌麿交流館や市立美術館などを活用し、本市の魅力を発信していく。

○まとめ

- ・今年には新市の誕生から15年の節目を迎える年となる。
- ・本市の将来を見据え、子どもから大人まですべての世代が幸せを実感できるまちづくりを目指して、精一杯の努力をしていく。